

(Ⅱ) 各研修会の概要

◆第1回合同研修会（4事業）

- 1 目的 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」に基づき、県内で実施される「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援活動」（以下「教育支援活動」という。）に関わるコーディネーター等の事業関係者が一堂に会し、資質向上や情報交換等を図るための研修等を行い、県内における「教育支援活動」の総合的な推進を図ることを目的に実施する。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 (1) 各市町担当職員 (2) 学校支援地域本部関係者 (3) 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者 (4) 家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者 (5) 土曜日の教育支援活動関係者 (6) 各小・中学校教職員
- 4 日時 平成26年 7月14日(月) 13:15～16:45
- 5 日程
- ・開会行事・4事業に関する事業説明
 - ・(第1部) パネルディスカッション パート1
 パネラー：高木 和久 氏
 (湖南市立岩根小学校地域本部事務局)
 武井 哲郎 氏
 (びわこ成蹊スポーツ大学助教)
 谷口 久美子 氏
 (NPO法人CASN理事長) (五十音順)
 コーディネーター：北川 徳弥 (滋賀県教育委員会事務局生涯学習課参事)
 - ・(第2部) グループに分かれての意見交換・情報交換
 - ・(第3部) パネルディスカッション パート2 (会場とパネラーによる質疑応答)
- 6 場所 県庁東館7階大会議室
- 7 参加者数 67名
- 8 概要



- (1) テーマ 『みんなで考えよう！ 地域の子育てのこれから』
 ～地域の宝（子ども）の成長をみんなで支える～

(2) 内容

次の2点において、各パネラーから御意見をいただいたり、参加者との意見交換を行ったりした。

- ①事業を実施するにあたって、大切にすべきこと
 - 【協議の場】何のために事業を実施しているのかという「ねらい」の共有
 - 【情報発信・地域の協力】子どもの育ちをみんなで支えようとする気運の醸成
 - 【三方よしの活動】「子ども（学校）によし、ボランティアによし、地域によし」
 - 【教員の意識改革】「開かれた学校づくり」の推進
 - 子ども達に、自治の力・問題解決能力をつける。
- ②現在各市町で行われている取組における課題
 - 「子どもに付けたい力」を共有しないままの漠然とした事業実施
 - お膳立てしすぎ、指導しすぎで子どもが「お客さん」に
 - 学校の理解不足、教員の意識改革（地域人材を活用する意識が低い）
 - 地域への事業の啓発不足（ボランティアの確保が難しい）
 - ボランティアが、「お手伝い」という発想から抜け出せていない（まなぶ・いかす・つながる…生涯学習の場）

- ボランティアが満足感・達成感を感じられる活動になっているか（打ち合わせ、振り返りの時間の確保）
- 家庭教育に関する講習会等に参加できない人にこそ支援が必要。この人達に、どのようにして支援を届けるか。

(3) 参加者のアンケートより

- ・ 目的の共有については、とても重要なことと考えている。学校長や教員も含めての本日のような研修が必要だと感じています。
- ・ グループでの話し合いではお互いの悩み、困り事を話し合うことができ、その対処についても考えていくことができ良かった。

◆ 第2回合同研修会（学校支援地域本部、土曜日の教育支援）

- 目的** 学校と地域ボランティアを結びつけるために、中心的役割を果たす学校支援地域コーディネーターおよび土曜教育コーディネーターの役割は大きいと、その資質向上とネットワーク構築を図るため、研修会を開催する。
- 主催** 滋賀県教育委員会
- 参加対象** (1) 学校支援地域コーディネーター (2) 土曜教育コーディネーター
(3) 市町独自の活動による地域コーディネーター
- 日時** 平成26年8月12日（火） 13:30～16:40
- 日程**
 - ・ 開会行事
 - ・ 講演
講師：NPO法人アクティブ王寺
代表理事（元 王寺北小学校長） 加藤 守弘 氏
奈良県王寺町立王寺北小学校支援地域本部
地域コーディネーター 岡田 里美 氏
 - ・ 情報交換
 - ・ 閉会行事
- 場所** 県庁新館7階大会議室
- 参加者数** 43名
- 概要**
 - 演題** 「地域を学校の宝に、そして学校を地域の宝に」
 - 内容**

昨年度アンケートよりニーズの高かったテーマである①地域人材の確保および連携の具体的方策と②活動プログラムの企画・実施の方策について、自らの実践をもとに、御講演いただいた。地域コーディネーターである岡田氏の取組は多岐に渡りつつも、きめ細やかであり、さまざまな工夫や配慮が参加者の参考になることが多かった。また、取組における苦労話も共感できるものであった。

元校長である加藤氏からは、学校からの視点、特に管理職のリーダーシップの必要性について御講演いただき、2学期からの実践に向けて、多くのヒントを得ることができた。



昨年度アンケートよりニーズの高かったテーマである①地域人材の確保および連携の具体的方策と②活動プログラムの企画・実施の方策について、自らの実践をもとに、御講演いただいた。地域コーディネーターである岡田氏の取組は多岐に渡りつつも、きめ細やかであり、さまざまな工夫や配慮が参加者の参考になることが多かった。また、取組における苦労話も共感できるものであった。

元校長である加藤氏からは、学校からの視点、特に管理職のリーダーシップの必要性について御講演いただき、2学期からの実践に向けて、多くのヒントを得ることができた。

(3) 参加者のアンケートより

- ・ 岡田さんのお話は、コーディネーターとしての苦労や失敗話もあり、とても聞きやすく楽しかったです。たくさんの活動やコーディネートがあり、驚きました。
- ・ 細かな面まで心遣いをされ、これがすべての成功のカギだと思いました。コーディネーターはボランティアに常に心配りをしていかねばならないことを学んだ。
- ・ 「公立の強み＝地域をもっている」これを生かさない手はない」がとても心に残った。

◆第3回合同研修会（4事業）

- 1 目的 県内で実施される学校・家庭・地域の連携協力推進事業に関わるコーディネーターや教育活動推進員、家庭教育支援員、教育活動サポーター、行政担当者等の事業関係者が一堂に会し、資質向上に向けた研修会を実施し、県内における各事業の効果的な推進を図る。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 (1) 各市町担当職員 (2) 学校支援地域本部関係者 (3) 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者 (4) 家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者 (5) 土曜日の教育支援活動関係者
- 4 日時 平成26年8月21日（木）9：30～12：00
- 5 日程
- ・開会行事
 - ・講演・演習
講師：鈴木 秀一 氏
(滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー)
 - ・閉会行事
- 6 場所 コラボしが21 大会議室
- 7 参加者数 34名
- 8 概要



(1) 演題 「子どもの言動の背景を考える～人間関係力を高める指導のあり方～」

(2) 内容

講師のスクールソーシャルワーカーとして多くの子どもや保護者と関わってこられた経験のもとに、映像を活用して、子どもや保護者理解についての研修を深めた。特に、子どもや保護者との関わりで知っておきたいことや児童観察のポイント、子どもの言動の背景にあるものなどについて、心理学的なアプローチなどを活用、紹介していただきながら、子どもや保護者に対する具体的な関わり方について学んだ。

(3) 参加者のアンケートより

- ・心に深くしみいる言葉、フレーズがたくさんあった。時間をかけてじっくりと振り返ってみたいと思う。
- ・自分のかける言葉によって、子どもを救えることを忘れずにいたい。
- ・子どもから発せられることを一度受け止めて、寄り添って同じ立場に立って、一緒に考えられる存在でいられるよう、心にとめていきたい。
- ・子どもを相手にする仕事には、本当に毎日違った出来事が起こるのが通常であるが、研修で学んだことを様々な状況で生かしていけるよう、たくさんの「引き出し」のある指導者になりたい。



◆第4回合同研修会（学校支援地域本部、土曜日の教育支援）

- 1 目的 学校と地域ボランティアを結びつけるために、中心的役割を果たす学校支援地域コーディネーターおよび土曜教育コーディネーターの役割は大きいため、その資質向上とネットワーク構築を図るため、研修会を開催する。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 (1) 学校支援地域コーディネーター (2) 土曜教育コーディネーター
(3) 市町独自の活動による地域コーディネーター
- 4 日時 平成26年10月30日(木) 13:30～16:40
- 5 日程

・開会行事

・事例発表①

発表者：東近江市蒲生地区

地域コーディネーター 大塚 ふさ 氏
東近江市教育委員会事務局生涯学習課
指導主事 東條 和徳 氏

・事例発表②

発表者：湖南市石部南小学校

地域コーディネーター 山元 尚美 氏
校長 伊藤 雅夫 氏
教諭 山中 寛二 氏

・情報交換

・閉会行事

- 6 場所 県庁東館7階大会議室
- 7 参加者数 54名
- 8 概要

- (1) 事例① 「蒲生の子は蒲生で守り育てよう。～地域の教育力を結束した学校支援活動～」
事例② 「子どもも地域ボランティアも成長する『みなみっこ応援団』」

(2) 内容

それぞれの地域の特性を生かしつつ、さまざまな工夫や配慮をしながら進めて来られた実践について、御発表いただいた。

東近江市からは、地域全体を視野に入れ、今後の地域と学校の関係を見据えて活動していくという、地域コーディネーターの役割の大切さについて学んだ。

湖南市からは、学校支援地域本部からコミュニティ・スクールへ移行する流れについて学んだ。

(3) 参加者のアンケートより

- ・蒲生地域コーディネーターの方の行動の広さ・深さに感銘を受け、学ぶことが多くあった。
- ・石部南小学校のコミュニティ・スクール推進委員会に関しての事例発表およびその具体的な取組を聞かせていただき、大変参考になった。2つの事例発表は、共に地域に根ざした地域学校を加味した取組であり、今後少しでも生かさせてもらいたいと思う。
- ・今後に向けた課題やビジョンが持てた。ネットワーク、フットワーク、チームワークを大切にしたい。
- ・各地域の取組を聞いてどちらにも新しい発見があった。他校と自校との違いをよい方向に導きたい。



◆第5回合同研修会（4事業）

- 1 目的 本事業に関わるコーディネーターや教育活動指導員等の事業関係者、学校教職員、行政職員等に対して、実施市町における各取組を発信するとともに、地域社会全体で子どもの育ちを支える体制づくりを推進し、地域の教育力の向上を図るこれからのあり方について研修を深めることを目的に実施する。
- 2 主催 滋賀県・滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 (1) 各市町担当職員 (2) 学校支援地域本部関係者 (3) 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者 (4) 家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者 (5) 土曜日の教育支援活動関係者 (6) 各小・中学校教職員
- 4 日時 平成27年1月30日(金) 13:00~16:00
- 5 日程

・成果報告

- 「学校支援地域本部」の報告 近江八幡市立八幡中学校の取組
「放課後子ども教室」の報告 栗東市大宝西ふれあい子ども広場の取組
「家庭教育支援」の報告 高島市家庭教育支援チームの取組
「土曜日の教育支援」の報告 湖南市立日枝中学校および下田小学校の取組

・講演

講師：香川大学生涯学習教育研究センター・センター長 清國 祐二 氏

- 6 場所 大津市市民会館 小ホール

- 7 参加者数 81名

8 概要

- (1) 演題 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動のこれからについて」

(2) 成果報告に関する講評および講演

- ・(学校支援地域本部) 地域の方が入り声をかけていただくことにより、子どもの安心につながっている。いじめにダイレクトに対処するのではなく、間接的に効果をあげていく実践である。管理職のリーダーシップのもと、学校が自信をもって地域の人に関わってもらっている姿に感心した。
- ・(放課後子ども教室) 地域の方々のあたたかいまなざしと共に、地域の子は地域で育てるという意識が伝わる取組であった。保護者のニーズに応えるのも大切であるが、家庭教育の役割を保護者自身にも理解していただけるように、そのバランスがとれれば更によい。
- ・(家庭教育支援) 悩んでいる保護者に居場所を、という目的だが、深刻な悩みをお持ちの方はなかなか来ない。いかにハードルを下げて関わっていけるかが、どこも悩みの種である。本取組では、気軽に立ち寄ってほしいというメッセージや、より裾野を広げたいという思いから、専門家ではなくボランティアが関わることとする工夫があった。
- ・(土曜日の教育支援) 中学生に役割を獲得してもらい、自己有用感を育てるといふ、子どもの意欲を高める取組であった。長い目で見たときに、この体験が種となり、いずれ花となるであろう。土曜日をいかに活用していくかということに対して、素晴らしいヒントがあった。
- ・学校支援の先に何があるのか、ということ意識することが大切であり、地域づくりに生かす方策として、各支援活動を総合的に進めてもらいたい。
- ・役割や責任を避けようとする社会になっているが、誰かの役に立つことの喜びを知るきっかけづくりが本事業の役割でもある。多くの方に、役割を果たす喜びを感じてもらいたい。

(3) 参加者のアンケートより

- ・成果報告は各取組ともすばらしかった。子どもの健全な育ちには、地域の力は大きいことを再確認した。
- ・講師の話は大変わかりやすく、学校の現状や地域の必要性などを学ばせていただいた。地域の大切さをますます実感した。今後は、学校に、子どもに更に寄り添いたいと感じた。

